



Title	吐魯番出土文物研究会会報 第70号 : 南疆遺跡參觀号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1991, 70, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78881
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

南疆遺跡参観報告（1）

荒川 正晴

本年の7月15日（月）から8月26日（月）にかけて、筆者は、新疆維吾爾自治区の天山南部地域（南疆）の諸遺跡を参観訪問した。今回の参観は、文部省科学研究（国際学術共同研究）費の助成を受けて行われたものであり（代表：早稲田大学、長澤和俊、研究題目：「新疆維吾爾自治区における東西交通路の路線と史跡の研究」）、予定では、実地調査を踏まえた上記のテーマに基づく研究が、日本と中国との共同研究の形で三年間継続して行われる。本年度は、来年度以降の調査のためのGeneral Surveyとしての性格を併せ持つため、広く南疆地域に散在する諸遺跡を参観した。ただし、後掲のごとく、南疆とは言っても、北疆地区に属す烏魯木斉市周辺と東疆地区に属す吐魯番地域を含んでいる。また参観した遺跡も、古城址・古墳群・石窟・烽燧遺址など多彩にわたっており、吐魯番や南疆地域における、漢～唐代の主要遺跡の現状とそれらの地理的な位置関係を確認することができた。今後は、これを踏まえ、特定の遺跡に限定した重点的な調査を目指すことになる。ただ現地研究者との学術交流を通して、各遺跡に関する、現時点での最新の情報を収集することにも努めたが、各地区における滞在期間がきわめて短いため、残念ながらこの点については十分な成果を得られなかった。なお今回、南疆各地の遺跡をめぐるにあたっては、新疆維吾爾自治区文化庁の許可のもとに、新疆文物考古研究所と新疆生物土壤沙漠研究所とが共同して参観をサポートして頂く形となった。いづれ筆者を含めた参加研究者により別に詳しく報告される予定であるので、本会報では、参観遺跡に関する基礎情報の整理にとどめることにする。はじめに、今回の日中両国の参加研究者と参観日程を掲げておく。

【参加研究者】

- （日本側）① 長澤和俊（早稲田大学文学部教授）
② 桜井清彦（ 同上 ）
③ 大橋一章（ 同上 ）
④ 荒川正晴（早稲田大学文学部非常勤講師）
⑤ 小沢正人（早稲田大学大学院文学研究科、北京大学留学生）
（中国側）① 夏 訓誠（中国科学院新疆分院・生物土壤沙漠研究所所長）
② 王 炳華（新疆社会科学院・新疆文物考古研究所所長）
③ 閻 国荣（中国科学院新疆分院・生物土壤沙漠研究所助理研究員）
④ 劉 文鎖（新疆社会科学院・新疆文物考古研究所研修員）

【参観日程】

7月16日～18日	烏魯木齊 (Urumchi)	8月 7日～11日	和田 (Khotan)
7月18日～22日	吐魯番 (Turfan)	8月11日～12日	民豐 (Niya)
7月22日～26日	烏魯木齊 (Urumchi)	8月12日～13日	且末 (Cherchen)
7月26日～29日	庫爾勒 (Korla)	8月13日～14日	若羌 (Charkhlik)
7月29日～8月1日	庫車 (Kucha)	8月14日～15日	庫爾勒 (Korla)
8月 1日～3日	阿克蘇 (Aksu)	8月15日～22日	烏魯木齊 (Urumchi)
8月 3日～7日	喀什 (Kashgar)		

日程表からも知られるように、南疆各地域での滞在期間は短いものであったが、できる限り研究所や各地区の文管所を始め各種の行政・研究機関を訪問し、研究者を始め多くの人々と交流をもつことができた。参考までに、今回訪問した主な機関と人物を、以下に一括して掲げる。

【新疆維吾爾自治区文化庁】（烏魯木齊市勝利路193号）

- 1 解 耀華（副庁長・新疆对外文化交流協会理事）
- 2 韓 翔（文物処処長）
- 3 王 經奎（文物処）
- 4 盛 春寿（文物処）

【新疆文物考古研究所】（烏魯木齊北京南路16号）

- 1 王 炳華（所長）
- 2 王 明哲（副所長）
- 3 張 玉忠（考古研究部主任）
- 4 羊 毅勇
- 5 劉 文鎖
- 6 劉 学堂

【中国科学院新疆生物土壤沙漠研究所】（烏魯木齊北京南路40号）

- 1 夏 訓誠（所長）
- 2 倪 頻融（科研計画与国際合作処処長）
- 3 宋 郁東（科研計画与国際合作処副教授）
- 4 閻 国荣（助理研究員）
- 5 朱 衛東（科研計画与国際合作処助理工程師）
- 6 張 鶴年（新疆維吾爾自治区生物土壤研究站・策勒沙漠研究站、所長）

【新疆維吾爾自治区博物館】（烏魯木齊西北路）

- 1 吳 震（研究員）
- 2 賈 応逸
- 3 王 欣

【吐魯番地区文物保管所・吐魯番地区博物館】（吐魯番市高昌路）

- 1 岑 雲飛（新疆吐魯番地区文物保管所、所長・新疆吐魯番地区博物館館長）
- 2 米 世忠（新疆吐魯番地区文物保管所）

【巴州文物陳列館】（庫爾勒市）

- 1 何 德修（館長）
- 2 譚 大海

【庫車県文物保管所・庫車県文化処】

- 1 謝 静波（庫車県文物保管所）
- 2 鄧 学鋒（庫車県文化処）
- 3 買買提・那期爾（庫車県文物保管所）

【阿克蘇地区文物管理所】（阿克蘇市北大街17号）

- 1 曾 安軍（所長）

【喀什地区文化処・喀什地区文管所】

- 1 買買提・阿不都拉（喀什地区文化処群文科、科長）
- 2 阿力甫（喀什地区文管所）
- 3 馬 迎勝（喀什地区文化処、処長）

【和田地区人民政府・和田地区文物管理所】

- 1 阿不都拉・艾孜（和田地区人民政府、副專員）
- 2 阿不都・哈地爾（和田地区文物管理所、所長）

【巴州且末県文体局文物保護管理所】

- 1 阿布都拉・阿布都熱西提
- 2 吐爾地克熱木

この他、和静県の察吾乎溝口古墓群（後掲遺跡表の（C）・③）では、中国社会科学院考古研究所の韓康信氏にお会いすることができた。同氏は、広く新疆地域に点在する古墓群出土の人骨調査を行われており、その成果は、「新疆古代居民的種族人類学研究和維吾爾族的体質特点」（『西域研究』1991年第2期）などに公表されている。同古墓群出土の人骨に関する本格的な調査は、これからとのことであるが、天山南麓のカラシャール近郊に生活していた民族系統について、人骨分析からどのような結論がだされるのか興味もたれる。また烏拉泊古城と烏拉泊古墓葬の参観に際しては、同時期、偶然にも烏魯木齊の新疆文物考古研究所に滞在されていた中国文物研究所（北京王四大街29号）の林梅村氏が同行された。氏の新疆来訪の目的は、新出のトゥムシュク文書の調査のためとのことであるが、同文書がどこでどれほど発見されたのかは詳かではない。また、吐魯番では、本会報の第46号（6頁）で紹介した中国吐魯番学学会の副会長兼秘書長をされている張文華氏ともお会いすることができた。その活動の一端は、既に李農「中国吐魯番学学会簡介」（『中国吐魯番学学会 研究通訊』第1期）pp.26-31に紹介されている。

ところで、前述のごとく、今回文化庁の許可を得て参観訪問した遺跡は、広く南疆に散

在する各種の遺跡であり、その数も40近くにのぼる。最近では、中国で各地区ごとに普查隊が組織され、それらが包括的な遺跡調査を敢行しており、その調査結果も続々と『新疆文物』誌上に発表されている※(1)。南疆地域についても、まもなく報告されるはずであるが、今後はその成果を吸収したうえで、各遺跡の研究を進めなければならない状況にある。まずは、今回参観した遺跡を以下にリストアップしておく。

【参観遺址】

(A) 烏魯木齊 (Urumchi)

- ① 烏拉泊古城 (烏魯木齊市の市街南約10km、烏拉泊水庫の西南約2km)
- ② 烏拉泊古墓葬 (同上、烏拉泊水庫の南斜面)
- ③ 柴窩堡湖古墓群 (烏魯木齊市東南50km) ※(2)
- ④ 塩湖烽燧遺址 (塩湖車站西北約1km)

(B) 吐魯番地域 (Turfan)

- ① 雅爾湖千仏洞 (吐魯番市の西約10km、交河故城西南河谷南岸)
- ② 雅爾湖古墓群 (吐魯番市西約10km、交河溝西土崖上)
- ③ 魯克沁墓葬群 (一棵桑樹、布爾土居結木古墓群。鄯善県魯克沁鎮吐格曼博依村北、魯克沁鎮東北約4km)
- ④ 魯克沁墓葬群 (三个橋古墳群、鄯善県魯克沁鎮三个橋村、魯克沁鎮東南約3km) ※(3)
- ⑤ 阿斯塔那古墳群 (吐魯番市東南約40km)
- ⑥ 柏孜克里克千仏洞 (吐魯番市東北約50km)
- ⑦ 勝金口千仏洞 (吐魯番市東北約40km) ※(4)
- ⑧ 吐峪溝千仏洞 (鄯善県県城西南約40km)
- ⑨ 高昌故城 (吐魯番市東約50km)
- ⑩ 交河故城 (吐魯番市西約10km)
- ⑪ 魯克沁古城 (鄯善県魯克沁鎮)
- ⑫ 台藏塔 (吐魯番市・阿斯塔那村<三堡村>)

(C) 庫爾勒市 (Korla)

- ① 博格達沁城址<四十里城子古城 (喀拉馬克沁)> (焉耆回族自治州県城西南約12km) ※(5)
- ② 明屋 (錫克沁) 遺址 (焉耆回族自治州県城西南約30km) ※(6)
- ③ 和静県察吾乎溝口古墓群 (和静県西約40km)
- ④ 鉄門関 (庫爾勒市の市街の北方約27km) ※(7)
- ⑤ 阿克墩遺址 (輪台县野雲溝村東約16km) ※(8)
- ⑥ 脱克塔木遺址 ※(9)

(D) 庫車県 (Kucha)

- ① 克孜爾千仏洞 (拝城県克孜爾鎮東南7km)
- ② 蘇巴什古城 (庫車県県城北約23km) ※(10)
- ③ 克孜爾朶哈千仏洞<克子喀拉罕石窟 (閻文儒氏)> (庫車県県城西約10km)

※ (11)

- ④ 克孜爾尕哈土塔址（庫車県県城西約10km）
- ⑤ 夏克土爾・玉其土爾遺址（庫車～新和県間の渭干＜ムザルト＞河畔）※ (12)
- ⑥ 龜茲故城（皮朗故城）

(E) 阿克蘇 (Aksu)

- ① 亜衣德梯木※ (13)
- ② 都埃梯木 ※ (14)
- ③ 温宿故城

(F) 喀什市、疏附県 (Kashgar)

- ① 三仙洞（喀什市市街北18km）
- ② 康輿依古城＜哈洛依古城＞（疏附県県城東北約20km）
- ③ 莫尔仏塔

(G) 和田市 (Khotan)

- ① 約特干遺址（和田市西方約10km）
- ② 賈力克阿瓦提遺址（和田市南約25km、玉龍喀什河西岸）

(H) 民豊県 (Niya) ・于田県 (keriya)

(I) 且末県 (Cherchen)

(J) 若羌県 (Charkhlik)

【注】

- (1) 既に『新疆文物』において、以下に掲げる普査隊による報告が公表されている。
自治区文物普査弁公室・吐魯番地区文物普査隊「吐魯番地区普査資料彙編」（1988-3）、
新疆維吾爾自治区文物普査弁公室・昌吉回族自治州文物普査隊「昌吉回族自治州文物
普査資料」（1989-3）、新疆維吾爾自治区文物普査弁公室・博爾塔拉蒙古自治州文物
普査隊「博爾塔拉蒙古自治州文物普査資料」（1990-1）、新疆維吾爾自治区文物普査
弁公室・伊犁地区文物普査隊「伊犁地区文物普査報告」（1990-2）、自治区文物普査
弁公室・烏魯木齊市文物普査隊「烏魯木齊市文物普査隊資料」（1991-1）。
- (2) 柴窩堡湖沿岸には、西南岸と東岸に細石器遺址も広がるが、今回参観したのは柴
窩堡湖東約1.7kmにある柴窩堡湖古墓群である。長さ約1.83km、幅約0.48kmの範囲内に
39の墳墓が南北方向に排列される。参観は、直径50m・高さ4mの最大墳墓周辺。
- (3) 上掲「吐魯番地区普査資料彙編」付載の「吐魯番地区文物分布目録」によれば、三
个橋村付近の古墓群遺址は、戦国～漢代の三坎克日墓群と唐代の三个橋古墓群に分か
れる。確認はできなかったが、参観は三坎克日墓群と思われる。
- (4) ただし、参観したのはオルデンプルクの言うхрам（寺院）№.10（現第2号
窟）のみ。Ольденбург, С. Ф., Русская Туркестанская Экспедиция
1909-1910 года., Санктпетербург. 1914. pp.37-44, XXXVII~XLI. 中国壁畫全
集編輯委員会編『中国壁畫全集 新疆6吐魯番』遼寧美術出版社・新疆人民出版社、
1990年、p.160の勝金口石窟参照。なお、勝金口付近には現在も多くの寺院址が残され
ている。勝金口仏寺（1～4）「吐魯番地区普査資料彙編」「吐魯番地区文物分布目

録」の89。

- (5) 本遺跡の平面図は、韓翔氏により公表されている。「焉耆国都、焉耆都督府治所与焉耆鎮城－博格達沁古城調査」(『文物』1982-4、pp.8-12)に付載。
- (6) 黄文弼の言う明屋溝南区を参観。黄文弼『新疆考古発掘報告(1957-1958)』(文物出版社、1983年)pp.36-46参照。
- (7) 孔雀河東岸山上地点。山高50m。黄文弼、前掲書、p.29には、鉄門関の遺址に二ヶ所あり、一つは孔雀河西岸平地(庫爾勒哈瑞溝供銷合作社打石組の傍ら)にあり、もう一つが同河東岸山上(打石組南約2.5km)に存在すると指摘される。
- (8) 黄文弼『塔里木盆地考古記』(科学出版社、1958年)p.9、付図4輪臺。自治区博物館文物隊・輪台县文教局「輪台县文物調査」(『新疆文物』1991-2)pp.9-11。唐代の城堡と認められ、張平氏は、これを榆林守捉城址に比定される。「有関唐安西烏壘州等地望考」(『新疆社会科学』1990-2)pp.120-127。
- (9) 黄文弼、前掲書、付図5庫車では、徒格塘木と表記。自治区博物館文物隊・輪台县文教局、前掲論文、pp.12-13。
- (10) 銅廠河の東西に分布するが、今回は河西遺址(南北長さ685m、東西170m)の78KZ FM1を参観。銅廠河西岸の仏教建築遺址群の西端に墓葬を伴う仏塔があり、現在78KZ FM1に編号されている。新疆博物館・庫車県文管所「庫車昭怛釐西大寺塔葬墓清理簡報」(『新疆文物』1987-1)p.12の図二78KZFM1の位置図参照。また黄文弼、『新疆考古発掘報告(1957-1958)』pp.71-93。黄文弼『塔里木盆地考古記』pp.28-30。
- (11) 第11~14、16、21、23~25、30、31、38窟参観。第31窟については、賈応逸「初論克孜爾尕哈石窟中的吐蕃洞」(『新疆文物』1991-2)pp.91-96参照。
- (12) 渭干河畔の夏克土爾(シャハトル)・玉其土爾(ウシトル)<黄文弼の色乃当旧城(『塔里木盆地考古記』p.17)。なお付図5庫車には于斯托拉の名も見える>両遺址については、1958年に調査された王炳華氏が、夏克土爾をペリオの発掘した「都勒杜爾阿胡爾Douldour aqour<クムトラ石窟溝口区南端対岸>」であったと認められている(「唐安西柘厥関故址并有関問題研究」『西北史地』1987年第3期、p.15)。さらに氏は、両遺址を唐の柘厥関(=柘厥寺)に比定されている(同上、p.19)。この他、韓翔・陳世良「龜茲佛寺之研究」『新疆文物』1989年第2期、p.80。梁志祥「庫車県古遺址簡介」『新疆大学学报』1985年第1期、pp.53-56も参照。
- (13) 1983年に文化部文物局・新疆博物館によって調査されている。柳晋文「巴楚－柯坪古絲道調査 兼述“濟濁館”，“謁者館”之地望」『新疆文物』1985年第1期、pp.17-19。また王炳華氏は、この遺址を唐の濟濁館に比定されている。「“絲路”考古新収獲」『新疆文物』1991年第2期、pp.21-41。
- (14) この遺址も、1983年に文化部文物局・新疆博物館によって調査されている。王炳華氏は、前掲論文、pp.21-41のなかで、これを唐の和平鋪に比定される。ただし、柳晋文氏は、同遺址を謁者館に比定する。前掲論文、pp.17-19。

(未完)

事務局(連絡先) 182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川正晴方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)